

2021（令和3）年度事業計画



～目次～

2021年度スローガン	1
I. 重点施策と重点事業	1
II. 2020年度事業	2
III. 長中期計画の行動計画より今年度取り組む施策	3
IV. 広報戦略で今年度取り組む施策	7
V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組む施策	8
VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組む施策	8
2021年度事業一覧	9
2021年度事業カレンダー	11



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

2021（令和3）年度事業計画にあたって

この度、2021年3月理事会で理事長（代表理事）に就任した水野正人と申します。前理事長から引継ぎ、日本連盟創立100周年記念に向けて、様々な計画を推進していきますので、ご協力をお願いします。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大で日本のみならず、世界中が大変な影響を受けました。我々のスカウト運動も多くの活動が中止あるいは延期されましたが、新たにオンラインを活用した活動、集会、会議が始まりました。また、文部科学省の委託事業として「ボーイスカウトとあそぼう！ ワクワク事前体験あそび」事業を受託し、全国で9千人を超えるスカウト以外の青少年が参加しました。

今年度は、2022年の日本連盟創立100周年まで、いよいよあと1年となりました。ご存じのとおり、私たちは100周年を目指してスカウト運動を再興させ、加盟登録人口を上昇させるために様々な施策に取り組んでいます。2016年度に策定した「100周年を目指した長中期計画」、2018年1月から最優先で取り組んでいる「財政再建及び組織改革に関する基本方針」等は、成果を確認し、総括する年となりました。

今年度からは、100周年後の「日本連盟のあるべき姿」を検討し、新たな「長中期総合計画」の策定を開始します。検討にあたっては、これまでに達成出来なかった課題を分析し、新たな取り組みが必要となります。

加盟員の皆さんには、100周年に向けて、そして100周年後の取り組みにご理解いただき、全員が一体となって取り組むことにご協力をお願いします。

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

理 事 長 水野正人

2021年度 事業計画

2021年度スローガン（案）

「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」 ～日本連盟創立100周年を目指して～

2021年度のスローガンは、2016（平成28）年度に日本連盟創立100周年を目指した長中期計画で策定した「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」を継続して取り組みます。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から沈滞部分の回復と、スカウト運動の社会への貢献を念頭に事業を進めます。また、これまで取り組んでいる長中期計画、財政再建及び組織改革に関する基本方針等の施策の総括を行うとともに、その成果を踏まえて創立100周年からの新長中期（戦略）計画の策定を行います。さらに、富士特別野営2021等各種行事を実施するとともに、創立100周年を目指した様々な準備を進めます。

そして、日本のスカウト活動の活性化と加盟員拡大を最大の課題として、第Ⅰ項以下に示す施策と事業を展開します。これらを通じて、とくに2021年度は次の成果を目標とします。

《2021年度 成果目標》

1. 仲間の増強化

- ① 野外活動の優位性をアピールし、積極的に子どもの親への理解を広げる。
- ② 親の望む子どもの育成に寄与し、仲間づくりを進める。

2. 活動の活性化（中途退団抑止）

- ① 仲間を尊重し、将来にわたり共に歩む人間関係を育成する。
- ② 全国各地でスカウト運動活性化戦略セミナー等の開催と団への支援を行う。
- ③ ローバースカウトの活動を支援する。

Ⅰ. 重点施策と重点事業

日本連盟では、事業展開するにあたり重点施策と重点事業を以下に示し進めていきます。事業の展開においては、国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に寄与できるよう積極的に取り組んでいきます。



《重点施策》

1. これまでの施策のまとめ

（1）財政再建及び組織改革に関する基本方針

2018年1月理事会で承認された7つの「基本方針」は、多くの課題を達成していますが、残された課題を2021年度中に解決させます。

- ① 財政強化に向け、助成金強化を織り込んだ「新・財政ビジョン」を策定する
- ② 事務局新体制に移行するとともに、事業や業務の見直しによる予算の効率化を進める
- ③ エンタープライズの経営は更なる健全化とスカウト用品経営会議の下で収益を向上させる。
- ④ 高萩スカウトフィールドの活用改善に向け、特別委員会により具体化施策を策定する。
- ⑤ 理事会の各種会議体の役割を明確にし、迅速な経営執行を可能とする。
- ⑥ 日本連盟の経営情報の更なる透明化に向け、ホームページの刷新、情報の伝達方法の改善を図る。

（2）日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み

2022年度の日本連盟創立100周年までに達成する長中期計画については、今年度で6年目を迎え、成果をまとめることとなります。以下の12項目の行動計画への具体的な取り組みは、3ページから7ページの一覧表を参照してください。

- ① コミッショナーの充実 ② 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)
- ③ 指導者養成 ④ 地域コミュニティづくり ⑤ プログラムの見直し ⑥ 登録制度の見直し
- ⑦ スカウティングにおける成人の役割 ⑧ 情報伝達手段の刷新 ⑨ 組織体制の検討
- ⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ ⑪ 公益事業の取り組み ⑫ 野外活動施設の確保

（3）加盟員拡大・組織拡充・中途退団抑止に向けた取り組み

加盟員の拡大と組織拡充に取り組み、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団との連携により、次の3項目を重点的に取り組みます。

- ・ 加盟員獲得に向けた広報戦略の展開・スカウト活動のユニークさをアピール

- 団診断による団への支援と新団設立への取り組み
- 中途退団抑止のための支援

(4) 安定した運営

公益財団法人として安定した運営を進めるために、次の4項目への取り組みを進めます。

- 企業・他団体・行政との連携促進
- 維持会員増強
- 財政ビジョンへ取り組み
- 世界・地域との連携
- オンライン会議等の活用促進

2. 100周年記念事業の準備

日本連盟創立100周年まで1年となる記念事業の様々な計画の検討を進めます。

- 記念事業の準備
- 第18回日本スカウトジャンボリー（18NSJ）の準備

3. 新長中期総合計画（長期戦略計画）の策定

日本連盟創立100周年となる2022年度以降の長中期総合計画の策定を開始します。策定にあたっては、青少年プログラム、アダルトリソース、加盟員拡大、組織、財政、社会連携・広報、国際等、全ての分野を網羅した長期的な展望を策定します。

4. 新登録制度の導入準備

今後、加盟員の金銭的負担を増やすことなく、我が国における最大の教育運動であるスカウト運動を今後も維持、発展させるため登録制度に関する抜本的な改革が必要となります。様々な主体と共に歩み、地域に根差したスカウティングを目指して、①スカウト運動の普及・発展のために多様な参加方式を確立させ、②加盟登録料に依存した財政基盤を改善するために会員の種別と納入方法を見直します。同時に、2022年度登録に向けて、新しい加盟登録コンピュータシステムの導入を目指します。

《重点事業》

1. 各種行事の開催

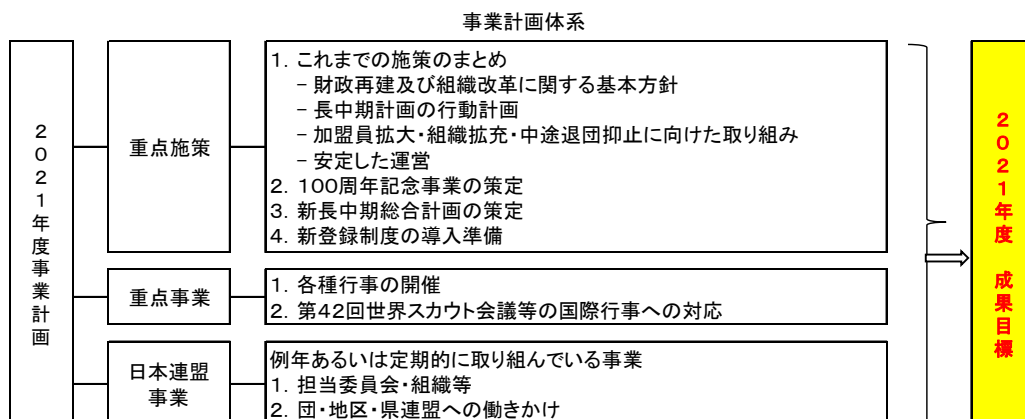
5月に静岡県熱海市で全国大会、8月に富士特別野営2021及びCJKBベンチャープロジェクト、9月にRCJ・ROUTE、1月に日韓スカウト交歓計画、3月に富士スカウト代表表敬等の行事を開催します。

2. 第42回世界スカウト会議等の国際行事への対応

4月にオンライン開催の第10回APRサミット、8月にオンラインで開催の第42回世界スカウト会議、2月に台湾で開催予定の第27回APRスカウト会議へ日本代表団を派遣する他、国際行事への対応を進めます。

II. 2021年度事業一覧

例年あるいは定期的に取り組んでいる事業を含み、日本連盟が2021年度に実施する事業については9ページから10ページに一覧表で示します。日本連盟のみならず、県連盟・地区・団が連携して取り組むものは、一覧表の関係組織に「◎」「○」を示しています。



Ⅲ. 長中期計画の行動計画より今年度取り組む施策

* 2021年度は長中期計画を取りまとめる年度となります。

*すでに完了あるいは実施している項目は除外しています。(事業報告書参照)

1. コミッショナーの充実

コミッショナーの充実に関する項目は全国の県連盟コミッショナーと連携して以下の5項目に取り組む。

地区コミッショナーへの支援(1-1)は、地区コミッショナーが各隊、団を支援するための重要な機会であるラウンドテーブルについて、全団調査の結果に基づき現状にあわせたテーマや開催方法を研究し、提供していく。各ブロックのコミッショナー会議に日本連盟コミッショナーが参席してコミュニケーションを促進しながら日本連盟施策の説明を行っている。

コミッショナー研修の充実(1-2)は、指導者養成委員会と協働してコミッショナー任務別研修を展開する。

団担当コミッショナーの検証(1-3)は、設置を継続することとしたが、その任務や業務については「コミッショナー制度の全般的な見直し(1-5)」と合わせて検討を進める。

団診断に基づく各県連盟への支援(1-4)は、全国調査を活用しながら、県連盟コミッショナーと協働する。特に団カテゴリーのC、D団への県連盟からの支援を展開する。

コミッショナー制度の全般的な見直し(1-5)は、上記の検討などにより全てのコミッショナーの任務や業務を含めた全般的な制度の見直しを行っていく。

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
1-1	【2019年度更新】 地区コミッショナーへの支援	・地区コミッショナーを中心として地域の各隊をバックアップしていく体制作り ・ラウンドテーブルの研究及び充実化を図る(全団調査の活用) ・日本連盟施策の説明会の開催				○	→	→	→	コミッショナー チーム
1-2	【2019年度更新】 コミッショナー研修の充実	・コミッショナーの質的向上 ・指導者養成委員会との協働				○	試行	実施	→	
1-3	【2019年度更新】 団担当コミッショナーの検証	・団担当コミッショナー制度改廃の検討				○	実施 検証	→		
1-4	【2019年度更新】 団診断に基づく各県連盟への支援	・県連盟コミッショナーと共同した支援 ・中途退団抑止特別委員会との協働 (全団調査の活用) ・団審査の確実な実施推進と分析				○ 実施	→	→	→	
1-5	【2019年度更新】 コミッショナー制度(県・地区)の全般的な見直し	・任務、業務の見直しと再検討 ・各役務別に求められる知識・技能の見直し				○ 検討	○	→	→	

2. 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

スカウト運動に関わる全ての指導者およびローバースカウトを対象とした「登録前研修」を実施し登録時に確認する仕組みを継続している。

「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」を継続開催し、県連盟・地区・団による「セーフ・フロム・ハーム」セミナー(基本編・実践編)の開催促進を図り、各セミナーが開催されることによって、セーフ・フロム・ハームの更なる理解促進を図っていく。

また、問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務を行うために県連盟対応ガイドラインの更新を行うとともに、ビーバー・カブ・ボーイ・ベンチャー用の学習教材を活用することで、スカウトの思いやりを育む教育のための心を育む取り組みを行う。

機関誌に「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会のページで継続して情報発信し、危害や事故防止の啓発を行っている。

更なる周知や取り組みのため、県連盟セーフ・フロム・ハーム担当者研修会や評価表の評価から更なる施策に取り組む。

【2-2、2-3は既に達成した課題】

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
2-4	抑止力の検討と広報活動	危害を起こさぬ機運づくりと広報活動(PR動画発信・機関誌記事掲載等)による繰り返しの周知行動を起こす。	○	○	○	○	○	○	○	SfH安全 社・広

既に達成した課題・整理した課題

2-2	問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備	問題解決のため、受付窓口を設定し、対処する組織整備を行う。	○	○	○	完了				SfH安全 コミ 社・広
2-3	普及、啓発のための研修、ツール開発。Eラーニングの活用	普及を図るためツールを作成し、提供する。	○	○	○	○	完了			SfH安全

3. 指導者養成

BS部門の質的向上(3-1)、野外での活動推進(3-2)については、基礎訓練課程および上級訓練課程の見直しにより、スカウト技能を用いたプログラム活動を野外において体験し、実際に計画実施ができる指導者の養成を行うことを中心に他項目との連携において年度ごとに達成効果を見極めていく。

ウッドクラフトコース開設(3-4)については、2019年度から定型訓練として実施しており、2020年度はコロナ対策として県連盟での開設を見送ったが、2021年度は県連盟開設コースとして実施する。

更新研修の確立(3-5)については、更新研修の必要性、効果、コスト等を調査し再検討を行う。

任務別研修(3-6)については、コミッショナー訓練においては任務別研修を2019年度に提示し、2020年度はコロナ対策として実施を見送ったことから、2021年度よりの実施に向けて作業中。その他の役務については2021年度に骨子を提示する。

トレーナー制度の改革(3-7)は、新項目としてトレーナー制度の見直しを検討しており、段階的に実施展開していく。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
3-1 3-2	1. ボーイスカウト部門の質的向上を図る 2. ハイキングやキャンプなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する	訓練及びインサービスサポートによって、プログラムの充実を図り、他項目の達成と連携して達成する。全指導者のスカウト技能の修得とそれらを用いたプログラム企画力の向上を進める。		○	○	○	○	○	○	指導者養成
3-5	指導者の更新研修の確立	更新コースの研究・開発。		○	○	○	○	見直し		ディレクターチーム
3-6	任務別研修の実施(必要な人に必要な訓練を行う 【完了していればこの行を削除】)	コミッショナー、理事等に対する訓練開発を行う。実施についてはコミッショナーが担当する。		○	○	○	○	試行	実施	タスクチーム
3-7	トレーナー制度の改革	トレーナーの役割分担を明確にすることで、トレーナーの活用を効率化すると共に、トレーニングチーム全体の底上げを図る。	検討	検討	一部実施	一部実施	実施	実施	実施	タスクチーム

既に達成した課題・整理した課題

3-3	基礎訓練を全課程で共通化	全県またはブロックでのコースの実施。	完了した	指導者養成
3-4	ウッドクラフトコースの開設(長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神(スピリット)の体得。)	スカウト技能の修得及びプログラムへの展開。コース内容の研究・開発、実施。	完了した	タスクチーム

4. 地域コミュニティづくり

スカウト運動の組織拡充を図りながら地域連携の強化(4-1)については、ワクワク自然体験あそび、防災キャラバン、難民支援プロジェクトの全国展開を継続する他、地域社会との連携事業の展開を進める。

未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり(4-2)については、引き続きモデル県連盟のニーズに応じた総合的支援を推進し、併せて、新団発足を進める。

日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催(4-3)については、モデル県連盟への取り組みと共に進める。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
4-1	スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化	防災キャラバンの全国展開を活かしながら地域の拠点づくりを行い、地域の青少年活動の中心的役割を示す。	○	○	○	○	○	○		社・広
4-2	未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり	登録200人以下の県連を積極的に支援し、3年以内で新規団を必ず発団させる。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	団支援・組織拡充
4-3	日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催	全国の首長等訪問・懇談を積極的に展開し、起点にし、青少年育成、アウトドア教育、防災教育等、地域と一体化する活動の拠点づくりを提言、実行に導く。	○	○	○	○	○	○		役員事務局

既に達成した課題・整理した課題

4-4	防災活動の地域連携による取り組み	国、自治体、住民の協力を得るなどして、地域防災の取り組みを図る。	完了した	SfH安全 防災・危機
-----	------------------	----------------------------------	------	----------------

5. プログラムの見直し

BS・VS部門のプログラム見直し(5-1)、学年制を考慮した部門の見直し(5-2)の研究結果をふまえ、教育部門の見直しと移行検討(5-6)を進め、企業と連携したバッジシステムの共同開発(5-4)は、継続・新規の取り組みを進めつつ、プログラム面と社会連携面から成果に対する評価を行う野外活動の拡大(5-5)は、今の時代に合わせたキャンパス標準の研究を行い、教育効果の高いアウトドア活動を展開する。部門プログラムの見直しに向けたタスクチームでの検討やプログラム実証団での取り組みを踏まえ、それぞれの部門の課題解決に向けて検討す

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
5-4	企業と連携したバッジシステムの共同開発	社会で活用できる技能の修得のため、企業と連携し、章の共同開発をする。	○	○	○	○	○	○	○	プログラム 社・広 (5-4)
5-5	全ての部門での野外活動の拡大	教育効果の高い、アウトドア活動を展開する。特にBS部門以上は本来活動を行うため長期野営を進める方策を考え、実施する。	○	○	○	○	○	○	○	
5-6	教育部門を次の4部門への移行検討	BVS部門(遊育エンター部門)、CS部門、BS部門(現行BS+現行VS)、RS部門(研究・社会貢献部門)。現行部門の状況と活動のあり方を研究し、移行を検討する(特にBVS部門とRS部門)。	○	○	○	継続	⇒	検討 継続 中		

既に達成した課題・整理した課題

5-1	BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し	両部門の進捗課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。	タスクチームによる検討をまとめつつ、5-6に統合して検討を進める。	プログラム タスクチーム
5-2	現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し	研究者を交えて検討を行う。部門の設定。		

6. 登録制度の見直し

2020年10月理事会において新登録制度検討特別委員会が設置され、新たな登録制度の検討を進めている。また、登録コンピューターシステムの見直しを進める。

隊登録できる最低スカウト人数(6-1)については、プログラムと組織運営全般から検討を行う。

地域性を考慮した隊・団のあり方(6-2)については、団の活動拠点の正確な把握、サテライトの運用などの研究を行っていく。同時に県連盟組織拡充担当委員長に情報提供していく。

各部門の登録の見直し(6-3)については、部門移行検討中につき、今後の検討となる。

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
6-1	隊登録できる最低スカウト人数の検討	BSの班制教育を基準とする班(組)のあり方と最小人数を探る。	○	○	○	○	○	⇒	⇒	団支援・ 組織拡充 プログラム ミッション 財務 社・広
6-2	地域性を考慮した隊・団のあり方	少子化による人数の少ない隊のあり方を探る。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	
6-3	部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特にBVS登録、RS登録)	部門見直しに伴う登録の仕方、登録費等の検討をする。(BVS、RSの登録費について)	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	

7. スカウティングにおける成人の役割

「スカウト運動の成人に関する日本連盟方針」を広く周知し、成人の獲得から訓練・個人的発達・評価・再任までのライフサイクルの各局面において効果的な支援ができるよう、コミッショナー及びトレーナーの役割を検討する。また、青年世代のスカウトを世界に通用する人材として育成するための機会を提供し、スカウト運動の社会における有益性をアピールする。

インサービスサポート(7-2)については、トレーナー制度の見直しと連携して、研究中である。

国際交流面(7-3)では、23WSJに関わった人材のみならず、県連盟単位での交流も新型コロナウイルス対応状況を把握しながら推進する。青年の意思決定への参画(7-4)は、WOSMのGSAT評価でも達成されていないことから、各委員会との関わり等で推進する必要がある。

ローパーの育成は、APR、WOSMとの関係強化(7-5)により、2021年度は特に世界スカウトユースフォーラム、APRスカウトユースフォーラム等の機会を通じて国際的に活躍できる青年の育成を進める。

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
7-2	インサービスサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる)	コミッショナーの依頼を受け、トレーナーの定型訓練外の活躍場所として機能させる。	○	○	○	○	○	○		コミッショナー 指導者養成
7-3	【2019年度更新】 県連盟単位での国際交流を戦略的に推進する	県連盟での国際交流を支援するため、国際活動サービスチームの強化を図る。				○	○	○		国際
7-4	【2019年度更新】 青年の意思決定への参画を促進する	各委員会へのRCJからの参画を検討する。				○	○	○		プログラム コミッショナー 国際
7-5	【2019年度更新】 APR、WOSMとの関係強化により人材育成を進める	APRで実施している青年代表グループ(YAMG)の国内での組織化を検討する。同時にSDGsやMOPへの取り組みにより強化を図る。				○	○	○		

8. 情報伝達手段の刷新

2017(平成29)年度からペーパーレス会議を導入し、目に見える効果を上げ、会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図っている。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、オンライン会議が定着し、目標をほぼ達成したと言える。今後は2020年度に設置したDX推進室が継続的に推進する。情報発信については、引き続き社会連携・広報委員会でも取り組む。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
8-1	ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる	タスクチームを設置し、ICT活用実行に向け、取り組みを展開する。 目標 ①紙文書や郵送費の削減と情報の迅速化を図る。 ②TV会議等の導入により会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図る。 ③全ての会議は、タブレットを使用する形式の確立。等						DX推進室に移行		事務局 DX推進室 社・広 他
8-2	各県連盟向けポータルサイトによる情報発信		○	○	○	○	○			
8-3	グループウェアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有									

9. 組織体制の検討

施策展開の組織的対応(9-1)については、政策等進捗管理担当理事及び改革他案等理事を配置し、関係委員長とともに対応を進めている。
企業・行政との関係(9-2)については、社会連携・広報委員会を中心に企業との連携を進め、公益性強化事業を進めている。
日本連盟と県連盟の役割(9-3)については、ペーパーレス化、オンライン化により業務改善を実施した。2021年度は全ての県連盟が対応可能となるよう支援を行う。(継続)
100周年基金設立(9-4)については、100周年記念事業特別委員会の下に特別募金小委員会を編成し、寄付金集めに着手している。(継続)

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
9-1	長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく	計画を円滑かつ確実に実行するため、必要な組織の変更を行うなど計画遂行に向けての対策をとる。また、計画の進行を監視するチームをつくる。	○	○	○	○	○	○	○	理事会 他
9-2	23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り(「企業連携」「公益性」を意識した組織)	企業連携、公益性を強化できる組織を検討する。	○	○	○	○	○	○		事務局
9-3	日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化	日連・県連の役割を見極め、各位の業務を強化する。	○	○	○	○	○	継続		事務局
9-4	100周年基金の設立	基金を設立し、社会貢献に繋がる事業を目指す。	○	○	○	○	○	継続		事務局

10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

ボーイスカウト教育法や指導者訓練法を活かした野外活動指導資格制度の開発、そして企業・団体向けの研修システムの開発を行う。
野外活動資格制度(9-1)については、制度研究を行った。今後、野外救急など、BSならではのスキル提供も含め検討を行う。
各種研修の社会への提供(9-2)については、高萩スカウトフィールドを利用した企業研修の検討を進めている。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
10-1	BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度	野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。	○	○	○	○	○			事務局 他
10-2	BS教育を活かした各種研修を社会への提供	BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。	○	○	○	○	○	○		事務局 社・広 他

11. 公益事業の取り組み

体験活動、野外活動などの社会への青少年教育啓発を行う。運動体として日常的な善行を強化推進するとともに、善行キャンペーンなどを通じて国民運動化へ向けてアクションを起こす。高萩スカウトフィールドについて一般利用を促進し、自然体験の場として青少年を中心とした市民への啓発を行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
11-1	運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入	組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。	○	○	○	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局
11-2	善行の日常化の推進	善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。	○	○	○	○	○	継続	継続	ミッション プログラム 社・広 事務局
11-3	新しい公益事業の取り組み	ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。	○	○	○	○	○			

12. 野外活動施設の確保

高萩スカウトフィールド(SF)については、特別委員会での検討に一本化し、活用タスクチームの検討内容や答申事項については年度内にまとめ共有する。

ガイドライン等(12-1、12-2、12-3)は、活用タスクチームとしての検討内容や答申事項を受け、高萩SF特別委員会において検討する。

プログラムパッケージ(12-4)については、活用タスクチームにて答申された高萩SFのパッケージをもとに、高萩SF特別委員会において具体化を進める。

課外授業・企業研修等の提供(12-5)については、市内高校への自然体験活動授業を基に、高萩SFを基盤とした組織づくりとともに、企業への提供準備を進める。

ユーストレーニング(12-6)については、ユース年代の高萩SFでの事業を展開している。事業の中でスキルアップを充実させていく。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
12-1	活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実(野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり)	「野営基準」の見直しとともにBS用「施設ガイドライン」を検討する。		○	○	○	○	継続		高萩SF特別委員会事務局
12-2	日本連盟野営施設の充実(ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化をする)	高萩SFなどモデル野営地をつくる。		○	○	○	○	継続		
12-3	ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大	(平成30年度以降の取り組み) 日連で優良基準を定め、適合野営地を優良認証する。			○	○	○	○		
12-4	プログラムパッケージの開発と提供	野外活動を重視した集会パッケージの開発		○	○	○	提供	⇒	⇒	
12-5	スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供	国家資格とチャレンジと併せ学校の課外授業の提供を検討する。	○	○	○	○	○	○		
12-6	ユーストレーニング(次世代のスタッフトレーニング)を検討	富士特別野営のスタッフや高萩SFでのワークキャンプを通じてスタッフの育成やユースのためのトレーニングを検討する。	○	○	○	○	○	○	○	

IV. 広報戦略で今年度取り組む施策

2016(平成28)年度、2019(平成29)年度に策定・実施した新広報戦略「10本の矢」を、改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
IV-1	新広報戦略「10本の矢」の継続普及	改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す	○	○	○	○	○			社会連携・広報
IV-2	新広報戦略「10本の矢」を、改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す。	「社会連携・広報キャラバン」を全国展開し、「新広報戦略10本の矢」に組織を挙げて取り組むよう、さらに戦略の普及に取り組んでいく ① イメージを統一して徹底的に発信 (例: コカ・コーラBS自販機は全国50台の設置を目標に) ② きっかけになるPR動画を拡散 ③ PRムービーコンテストの実施 ④ 関心を持った人々をリクルートサイトに呼び込む ⑤ 団情報のHP発信支援 ⑥ 多くの人にスカウティングを体験してもらう機会提供 ⑦ 入隊したビーバー・カブのお母さんの声を聞く ⑧ ローバーを社会に売り込む ⑨ かつての仲間を呼び戻す ⑩ 「PRドリームチーム」参加促進 * 2020年度からの任期の委員会により、新たな広報戦略を策定・実施する								

V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組む施策

今年度の重点施策として、加盟員拡大と中途退団抑止に取り組むが、長中期計画、広報戦略、財政ビジョンによる相乗効果を考慮した具体策を進める。

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
V-1	各年度事業計画の重点施策としての加盟員拡大への取り組み	長中期計画に含まれている課題に加えて、団支援・組織拡充委員会による加盟員拡大の取り組み。	○	○	○	○	○	○	○	団支援・組織拡充 社会連携・広報 中途退団抑止
V-2	都道府県連盟による100周年を目指した加盟登録人数目標設定	都道府県連盟による加盟登録人口見込みを毎年度分析し、必要な支援を行う。		○	○	○	○	○	○	
V-3	各団の加盟登録人数に基づく団診断	都道府県連盟へ毎年度団診断のデータを提供し、団支援の具体的な対応を進める。		○	○	○	○	○	○	
V-4	中途退団抑止への取り組み	2017(平成29)年度のタスクチームによる検討を踏まえ、特別委員会として具体的な取り組みを進める。			○	○	○	○	○	
V-5	長中期計画との相乗効果	2016(平成28)年度から取り組んでいる長中期計画の相乗効果を狙った具体的な中途退団抑止策の取り組み。			○	○	○	○	○	
V-6	県連盟訪問・支援事業の展開	中途退団抑止特別委員会、団支援・組織拡充委員会、社会連携・広報委員会の3委員会合同での県連盟への取り組みを進める。					○	○	○	
V-7	高校3年生年代のスカウトに対して、スカウティングへの興味と関心のさらなる喚起に関する取り組み	高校卒業を契機に進学等で住所を移動するスカウトに対して、新住所地でもスカウティングに関われるよう支援する。						○	○	

VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組む施策

日本連盟の維持・発展には、財政面の対応が不可欠である。2017(平成29)年度に取りまとめられた「日本連盟100周年財政ビジョン」に基づき、必要な財政再建を進め、長中期計画、広報戦略、加盟員拡大と中途退団抑止を効果的に進め、相乗効果を達成することを目指しているが、加盟員減少が続いていることが大きな問題となっている。

加盟登録料については、総収入リンク型への移行と改定は困難なことから、新登録制度検討特別委員会での対応を検討する。

今後に向けて、新たな財政ビジョンの検討を行う必要がある。

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
VI-1	政策課題への取り組み	1. 中途退団抑止策への財政面施策 2. 共済事業への財政面施策 3. 特定資産取崩分積立施策			○	○	○	○	○	理事会 財務事務局
VI-2	自助努力による経済効果策	次の自助努力により収入増と支出減を図り、その財源を中途退団抑止に役立てる。 【収入増の取り組み】 1. 国債の不動産化と本郷会館の賃貸化【実施済】 2. 集会等参加者負担金の値上(単年度処理案件のみ) 3. 施設利用料の増収 4. 企業からの協賛金 【支出減の取り組み】 1. 事務局人件費削減化【実施中】			○	○	○	○	○	
VI-3	加盟登録料の改定	財政健全化のために加盟登録料の改定は避けて通れないため、次の対応を進める。 1. 平成31年度からの加盟登録料改定を進める【済】 2. その2年後から総収入の変化に対応した「総収入リンク型」への移行も視野に入れる 【現状移行は困難なため新登録制度検討特別委員会での対応を検討】				○		○		
VI-4	今後の日本連盟の財政のあり方の検討	財政ビジョンの取り組みと同時に、今後の日本連盟の財政のあり方を具体的に示す。 【新財政ビジョンの検討を行う】			○	○	○	○	○	

VII. 2021年度事業一覧

				担当 委員会等	関係組織			
					日	県	地	団
公1:ボーイスカウト運動の教育計画の策定及び運営								
公 1	11	教育計画の策定及び運営						
	11-01	スカウト教育推進会議	年間4回開催	コミッショナー	◎			
	11-02	各種委員会	8常設委員会、5特別委員会、4小委員会・タスクチーム、RCJ	各委員会	◎			
	11-03	全国事務局長会議		事務局	◎	○		
	11-04	日本連盟コミッショナー会議		コミッショナー	◎			
	11-05	ブロック県連盟コミッショナー会議		コミッショナー	◎	○		
	11-06	県連盟コミッショナー会議		コミッショナー	◎	○		
	11-07	県連盟代表者会議		事務局	◎	○		
	11-08	新年賀詞交歓会		事務局	◎	○		
	11-09	役員国内旅費		専務(局長)	◎			
	11-10	組織拡充モデル県連盟事業		団支援・組織拡充	◎	○	○	○
	11-11	全国組織拡充担当委員長会合		財務	◎	○		
	11-12	募金事業	維持会員日より・送付物、感謝盾、維持会員証、ちらし等	財務	◎	○	○	○
	11-13	トモス助成		社会連携・広報	◎	○	○	○
	11-14	社会連携事業		社会連携・広報	◎			
	11-01	コラボレーションパッジ		社会連携・広報	◎	○	○	○
	11-02	全国防災キャラバン		社会連携・広報	◎	○	○	○
	11-03	難民支援プロジェクト		社会連携・広報	◎	○	○	○
	11-04	スカウトと社会をつなぐ場所		社会連携・広報	◎			○
	11-05	企業セミナー		社会連携・広報	◎			
	11-15	100周年準備		100周年	◎	○	○	○
	11-16	「人生の岐路に立つ君へ」事業		団支援・組織拡充	◎	○	○	○
	11-17	富士章授与証・記章、記念品等		プログラム	◎	○	○	○
	11-19	エディンバラ公アワード		プログラム	◎			○
	11-20	宗教章授与証		信仰奨励	◎	○	○	○
	11-21	宗教代表者会議		信仰奨励	◎			
	11-22	DXサミット		DX推進室	◎	○	○	○
	12	地球環境保全・保護及教育	スカウトの日	プログラム	◎	○	○	○
	13	BS活かした自然体験活動	ワクワク自然体験あそび	関係委員会	◎	○	○	○
	14	教育に必要な施設の提供	スカウト会館・那須野営場・高萩スカウトフィールド管理、公益土地管理、環境対策等	事務局	◎			
	15	集会及び講演会の開催						
	15-01	18NSJ開催準備		18NSJ	◎	○	○	○
	15-02	13NA開催		13NA	◎	○	○	○
	15-03	富士特別野営		富士特	◎	○	○	○
	15-04	RCJ-ROUTE(野営大会)		プログラム	◎	○	○	○
	15-05	富士スカウト代表表敬・顕彰		プログラム	◎	○	○	○
	15-06	スカウトソング研修会		スカウトソング	◎	○	○	○
	15-07	スカウトソングワークショップ		スカウトソング	◎	○	○	○
	16	共済事業		共済	◎	○	○	◎
	16-01	共済事業	機関誌安全記事合本、安全促進フォーラム、SFH推進フォーラム、eラーニング等を含む	SFH・安全	◎	◎	○	○
公2:ボーイスカウト運動の普及及び広報								
公 2	21	BS運動の普及及び広報			◎	○	○	○
	21-01	普及資料の作成		社会連携・広報	◎	○	○	○
	21-02	名誉会議		名誉会議	◎	○	○	○
	21-03	表彰事業費		名誉会議	◎	○	○	○
	21-04	組織拡充(顕彰)		団支援・組織拡充	◎	○	○	○
	21-05	維持会員年功章		財務	◎	○	○	○
	21-06	写真・ムービーコンテスト		社会連携・広報	◎	○	○	○
	21-07	スカウトライブラリー運営事業		事務局	◎	○	○	○
	21-08	中途退団抑止	特別委員会、スカウト運動活性化戦略セミナーを含む	中途退団	◎	○	○	○
	21-09	PR戦略展開	PRイベント出展、PR活動等	社会連携・広報	◎	○	○	○
	21-10	その他広報	機関誌合本作成、編集関係	社会連携・広報	◎	○	○	○
	21-11	キッズフェスタ		プログラム	◎			
	22	図書雑誌等刊行・電子情報						
	22-01	機関誌刊行		社会連携・広報	◎	○	○	○
	22-02	出版物刊行		プログラム	◎	○	○	○
	23	電子媒体(インターネット)		DX、社会連携・広報	◎	○	○	○

				担当 委員会等	関係組織			
					日	県	地	団
公3:指導者の養成								
公 3	31	指導者の養成						
	31-01	全国大会開催及び開催準備		全国大会	◎	○	○	○
	31-02	新指導者養成体制の充実	サポートツール、指導者養成関係タスクチーム	指導者養成	◎	○	○	○
	31-03	県連開設指導者訓練補助	ホーイスカウト講習会、ウッドバッジ研修所、団委員研修所、コミッショナー研修所	指導者養成	◎	○	○	○
	31-04	県連盟指導者養成等補助		財務	◎	○		
	31-05	指導者養成(日本連盟開設)	ウッドバッジ実修所、団委員実修所、LTC、ALTC、ウッドクラフトコース、任務別研修	指導者養成	◎	○	○	○
	31-06	トレーニングチーム	県連盟ディレクター研修集会、トレーナー研修集会、実修所所長主任会議、新任ALT研修会、日本連盟ディレクター会議	指導者養成	◎	○	○	○
公4:国際相互理解の促進及び国際協力								
公 4	41	国際理解促進・国際協力						
	41-01	ナショナルジャンボリー等派遣		国際	◎	○	○	○
	41-02	日韓スカウト交歓		国際	◎	○	○	○
	41-03	オーストラリア留学生受入		国際	◎	○	○	○
	41-04	CJKベンチャープロジェクト日本開催		国際	◎	○	○	○
	41-05	海外派遣選考		国際	◎	○	○	○
	41-06	役職員海外派遣		国際コミッショナー	◎			
	41-07	APRサミット会議派遣		国際コミッショナー	◎			
	41-08	世界スカウト会議派遣		国際コミッショナー	◎	○	○	○
	41-09	APRスカウト会議派遣		国際コミッショナー	◎	○	○	○
	41-10	世界スカウト機構関係強化		国際コミッショナー	◎			
	41-11	世界に通用する人材確保		国際	◎			
	41-12	CJK事務局長会議		事務局	◎			
	41-13	対外義捐金		国際	◎			
	41-14	JOTA/JOTI		プログラム	◎	○	○	○
	41-15	世界スカウト財団等協力		社会連携・広報	◎			
	41-16	国際登録料支出		事務局	◎			
	41-17	翻訳資料作成		国際、コミッショナー、事務局	◎			
	41-18	25WSJ派遣準備		25WSJ派遣実行委員会	◎	○	○	○
収益事業								
収 益	61-01	不動産賃貸事業		事務局	◎			
	61-02	事務代行事業		事務局	◎			
その他事業								
他	62-01	登録事業費	新登録システム設計・開発・構築を含む	事務局・DX	◎			
	62-02	賠償責任保険		事務局	◎			
管理事業								
管 理	81-01	理事会・評議員会		理事会・評議員会	◎			
	81-02	その他管理事業	給料、法定福利、厚生、退職給付、光熱水、備品器具、消耗品、通信運搬、渉外、交通、車輛等	事務局	◎			

2021(令和3)年度事業カレンダー

2021.3.09現在

2021年4月		2021年5月		2021年6月		2021年7月		2021年8月		2021年9月		2021年10月		2021年11月		2021年12月		2022年1月		2022年2月		2022年3月	
1 木	土	火	水	火	木	木	日	日	水	金	金	月	月	土	火	土	火	土	火	火	火	火	1
2 金	日	水	金	水	金	金	月	月	木	土	土	火	火	日	水	水	水	日	水	水	水	水	2
3 土	月	木	土	木	土	土	火	火	金	日	日	水	水	月	木	木	木	月	木	木	木	木	3
4 日	火	金	日	金	日	日	水	水	土	月	月	木	木	火	土	土	金	火	金	金	金	金	4
5 月	水	土	月	土	月	月	木	木	日	火	火	金	金	金	日	日	日	水	土	土	土	土	5
6 火	木	日	火	日	火	火	金	金	土	水	水	土	土	土	月	月	月	木	日	日	日	日	6
7 水	金	月	水	月	水	水	土	土	火	木	木	木	木	日	火	火	火	金	月	月	月	月	7
8 木	土	火	木	火	土	土	日	日	水	金	金	金	金	月	水	水	水	土	火	火	火	火	8
9 金	日	水	金	水	日	日	月	月	木	土	土	土	土	火	木	木	木	日	水	水	水	水	9
10 土	月	木	土	木	土	土	火	火	金	日	日	月	月	水	金	金	金	月	木	木	木	木	10
11 日	火	金	日	金	日	日	水	水	土	月	月	火	火	日	土	土	土	火	金	金	金	金	11
12 月	水	土	月	土	月	月	木	木	日	火	火	金	金	月	水	水	水	土	土	土	土	土	12
13 火	木	日	火	日	火	火	金	金	土	土	土	土	土	土	月	月	月	木	日	日	日	日	13
14 水	金	月	水	月	水	水	土	土	火	木	木	木	木	日	火	火	火	金	月	月	月	月	14
15 木	土	火	木	火	土	土	日	日	水	金	金	金	金	月	水	水	水	土	火	火	火	火	15
16 金	日	水	金	水	日	日	月	月	木	土	土	土	土	火	木	木	木	日	水	水	水	水	16
17 土	月	木	土	木	土	土	火	火	金	日	日	月	月	月	金	金	金	月	土	土	土	土	17
18 日	火	金	日	金	日	日	水	水	土	月	月	火	火	土	土	土	土	火	金	金	金	金	18
19 月	水	土	月	土	月	月	木	木	日	火	火	金	金	月	水	水	水	土	土	土	土	土	19
20 火	木	日	火	日	火	火	金	金	土	土	土	土	土	土	日	日	日	金	月	月	月	月	20
21 水	金	月	水	月	水	水	土	土	火	木	木	木	木	日	火	火	火	金	月	月	月	月	21
22 木	土	火	木	火	土	土	日	日	水	金	金	金	金	月	水	水	水	土	火	火	火	火	22
23 金	日	水	金	水	日	日	月	月	木	土	土	土	土	土	土	土	土	月	水	水	水	水	23
24 土	月	木	土	木	土	土	火	火	金	日	日	月	月	月	金	金	金	月	土	土	土	土	24
25 日	火	金	日	金	日	日	水	水	土	月	月	火	火	土	土	土	土	火	金	金	金	金	25
26 月	水	土	月	土	月	月	木	木	日	火	火	金	金	月	水	水	水	土	土	土	土	土	26
27 火	木	日	火	日	火	火	金	金	土	土	土	土	土	土	日	日	日	金	月	月	月	月	27
28 水	金	月	水	月	水	水	土	土	火	木	木	木	木	日	火	火	火	金	月	月	月	月	28
29 木	土	火	木	火	土	土	日	日	水	金	金	金	金	月	水	水	水	土	土	土	土	土	29
30 金	日	水	金	水	日	日	月	月	木	土	土	土	土	土	火	火	火	金	月	月	月	月	30
31 月	土	木	土	木	土	土	火	火	金	日	日	月	月	月	土	土	土	月	土	土	土	土	31